

木祖村議会だより

道しるべ



次代につなげる藪原まつり

盛大に地域の安寧を願う



(写真：湯川喜義氏)

No. 192

令和7年8月12日(火)

令和7年5月・6月会議
特集 令和7年度議会現地踏査

CONTENTS

- ▶ P2：5月・6月会議 議案審議結果
- ▶ P3：6月会議 常任委員会連合審査
- ▶ P4：6月会議 全員協議会
- ▶ P5：6月会議 一般質問／「カリキュラム・オーバーロード」の改善を求める意見書
- ▶ P6：6月会議 一般質問／高額療養費の自己負担上限額の引き上げをしないことを求める意見書
- ▶ P9：6月会議 一般質問／木曽広域連合議会第2回定例会
- ▶ P10～12：議員活動報告1
特集 令和7年度議会現地踏査
- ▶ P13：議員活動報告2
- ▶ P14：元気発見むらびと大図鑑／編集後記

令和7年 5月会議

5月12日(月) 再開
5月12日(月) 散会

5月12日に再開された5月会議の議事内容は専決報告5件(条例2件、補正予算3件)、議案1件でいずれも慎重審議のうえ可決承認された。内容は以下のとおり。

▶ 議案審議結果 (付託委員会名 厚文：厚生文教委員会 産経：産業経済委員会)

■ 専決報告第1号	木祖村税条例の一部を改正する条例について (厚文)	…報告
■ 専決報告第2号	木祖村国民健康保険税条例の一部を改正する条例について (厚文)	…報告
■ 専決報告第3号	令和6年度木祖村一般会計補正予算(第11号) (厚文・産経)	…報告
■ 専決報告第4号	令和6年度木祖村国民健康保険特別会計補正予算(第6号) (厚文)	…報告
■ 専決報告第5号	令和6年度木祖村後期高齢者医療制度特別会計補正予算(第3号) (厚文)	…報告
■ 議案第33号	建設工事請負契約の締結について (産経)	…可決

● 木祖村税条例の一部を改正する条例について

地方税法等の一部を改正する法律が令和7年3月に公布されたことに伴い村税条例を改正するもの。(以下、その項目)

- ・大学生年代の子等に係る所得要件の引上げ
- ・二輪車の車両区分の見直し
- ・加熱式たばこの課税方式の見直し
- ・身体障害者が軽自動車の減免申請する際のマイナ免許証の取扱 他

● 令和6年度木祖村一般会計補正予算(第11号)

- ・年度末における関係予算の確定等に伴う増減調整のための補正。3月の降雪の状況により土木費の除雪融雪剤散布委託料について増額補正した。また木祖村自然同好会の解散に伴う寄付金を計上した。

● 議案第33号 建設工事請負契約の締結について

- ・やぶはら高原スキー場における国設第一ゲレンデスノーマシン整備工事請負契約の締結について承認を求めるもの。指名競争入札の結果、請負者 檜山スノーテック(株)に決定。契約金額：94,820千円

令和7年 6月会議

6月12日(木) 再開
6月17日(火) 散会

6月会議は6月12日に再開し報告2件、議案7件、発議4件について慎重審議、原案通り可決し、6月17日に散会した。

一般会計補正予算は歳入歳出それぞれ46,416千円を追加し、総額をそれぞれ3,305,258千円とした。

▶ 議案審議結果 (付託委員会名 厚文：厚生文教委員会 産経：産業経済委員会)

■ 報告第1号	令和6年度木祖村繰越明許費繰越計算書の報告について (厚文)	…報告
■ 報告第2号	令和6年度木祖村簡易水道事業会計予算繰越計算書の報告について (厚文)	…報告
■ 議案第34号	木祖村私債権管理に関する条例の制定について (厚文)	…可決
■ 議案第35号	木曽広域連合規約の変更について (厚文)	…可決
■ 議案第36号	木祖村過疎地域持続的発展計画の変更について (厚文)	…可決
■ 議案第37号	令和7年度木祖村一般会計補正予算(第1号) (厚文・産経)	…可決
■ 議案第38号	令和7年度木祖村国民健康保険特別会計補正予算(第1号) (厚文)	…可決
■ 議案第39号	令和7年度木祖村後期高齢者医療制度特別会計補正予算(第1号) (厚文)	…可決
■ 議案第40号	令和7年度木祖村簡易水道事業会計補正予算(第1号) (産経)	…可決
■ 発議第3号	高額療養費の自己負担上限額の引き上げをしないことを求める意見書の提出について(提案者：安原千佳世議員)(P6 Pickup 参照) (厚文)	…可決
■ 発議第4号	最低賃金法の改正と中小企業支援策の拡充を求める意見書の提出について (厚文)	…可決
■ 発議第5号	「さらなる少人数学級推進と教員増のための教育予算確保」と「義務教育費の国庫負担制度の堅持・拡充」を求める意見書の提出について(提案者：深澤衿子議員) (厚文)	…可決
■ 発議第6号	「カリキュラム・オーバーロード」の改善を求める意見書の提出について(提案者：深澤衿子議員)(P5 Pickup 参照) (厚文)	…可決

● 議案第34号 村の私債権(住宅貸付料、水道料等)の管理の適正を期するため、その管理に関する事務処理について必要な事項を定めるもの。

● 議案第35号 木曽広域連合業務に「広域的な公共交通に関する事務」を加えるため規約の変更を行うもの。

● 議案第37号 令和7年度木祖村一般会計補正予算(第1号)

主なものは、幸せテラスまめのわ周辺緑地整備費用3,795千円、林道床並線路肩修繕工事3,300千円、国設第1ゲレンデスノーマシン整備工事増工分9,009千円、村道味噌川線改良工事28,500千円、崩沢水路整備工事9,460千円、小学校電話交換設備等工事3,910千円等46,416千円を増額し、総額3,305,258千円とする補正予算。

厚生文教委員会 総務課 住民福祉課 教育委員会

議案第34号 木祖村私債権管理に関する条例の制定について

問 下水道料と水道料で公債権と私債権の違いについて※1
答 水道料金は最高裁判例により私法上の債権と確定され、下水道料は自治法上の公債権となっている。また、条例を制定することにより、これまでの対応をより明確にし、事務上の処理を適正に管理していく。 **用語解説**

議案第35号 木曽広域連合規約の変更について

議案第36号 木祖村過疎地域持続的発展計画の変更について

議案35号、36号とも質疑なし

議案第37号 令和7年度木祖村一般会計補正予算(第1号)

問 幸せテラスまめのわ周辺緑地整備工事について
答 テントは丈夫な物であるが管理を怠らないよう、冬期間は撤去する。また、敷地の芝生化については今回は行わない。
要望 設置するフェンスの安全対策やテント内に椅子やテーブルなどを設置し、住民が集える場所の確保をしてほしい。
問 ネコ繁殖制限について
答 外にいるネコ20頭ほどの対応は終わっており、今後、家の中にいるネコを含め20頭程度の対応をしていく。また、多頭飼育の対応は保健所とともに指導をしており、去勢手術の同意を得られれば、申請いただき補助をしている。
要望 健康ポイントの引き換えを時間外に対応してほしい。
答 夜間窓口においてもニーズが増えており、職員で対応できる部分は対応していく。

産業経済委員会 産業振興課 建設水道課

議案第37号 令和7年度木祖村一般会計補正予算(第1号)

問 地域おこし協力隊について
答 今年度の応募者はいなかった。年度途中の採用も可能だが、農繁期を過ぎてしまうため、インターンシップ制度を活用し、令和8年度採用に向けて対応していく。
問 道路改良の村負担分について
答 地方債を活用した場合は交付税措置を除いた3割が村負担になる。
問 崩沢水路改修工事について
答 大原井水の影響による工事ではなく、流末の改修工事になる。
要望 林道床並線修繕工事について、伐採工事の搬出が終わってから着工するようにしてほしい。

議案第40号 令和7年度木祖村簡易水道事業会計補正予算(第1号)

TOPICS

幸せテラスまめのわの周辺緑地整備
丈夫な大型テントを張る

議案第38号 令和7年度木祖村国民健康保険特別会計補正予算(第1号)

問 基金の取り扱いについて
答 今後、取り扱いについて協議されていくこととなるが、検討課題となっている。市町村の財政状況が厳しくなれば、県の基金を借りて財政運営する方法もある。

議案第39号 令和7年度後期高齢者医療制度特別会計補正予算(第1号)

質疑なし

受付1番陳情 高額療養費の自己負担上限額の引き上げをしないことを求める陳情

▶ 提出者：長野県社会保障推進協議会
代表委員 宮沢裕夫 他

受付2番陳情 「最低賃金法の改正と中小企業支援の拡充を求める意見書」の採択を求める陳情書

▶ 提出者：長野県労働組合連合会 議長 細尾俊彦

受付3番請願 「さらなる少人数学級推進と教員増のための教育予算確保」・「義務教育費の国庫負担制度の堅持・拡充」を求める請願書

▶ 提出者：木祖村公立学校教職員組合
代表 大池のぞみ

受付4番請願 「カリキュラム・オーバーロード」の改善を求める意見書採択の請願について※2

▶ 提出者：木祖村公立学校教職員組合
代表 大池のぞみ **用語解説**

TOPICS

吉田地区送配水管布設替え工事、現在は仮設配管だが、早期着工する

問 吉田地区送配水管布設替え工事について
答 現在は仮設配管で対応し、国交省と協議しながら設計をしている。早期着工に努めたい。(P12中段参照)

用語解説 (連合審査で扱った議案中の難しい用語を解説します)

※1 「公債権、私債権」：
公債権は行政庁の処分(税の賦課決定等)により発生し相手側の同意を要しない債権。私債権は私法上の原因、契約等による当事者間の合意に基づき発生する債権。
 ※2 「カリキュラム・オーバーロード」：
児童生徒が日常的にこなすべき授業や課題、行事などの学習負担が過度となり心身に悪影響を及ぼす状態のことをいう。

(注)用語解説は簡易に説明したものであり、必要によりお調べ願います。



(連合審査の様様)

協議事項

① 木曽地域の周産期医療体制について

木曽保健福祉事務所及び県立木曽病院院長から、木曽地域の周産期医療体制について県として周産期医療検討会に木曽支部を入れる提案及び麻酔科医確保に向けて人材派遣会社へ働きかけをするも厳しい状況であると説明があった。

議員から宿泊時の心のケアの対応（ファミリーサポート体制）や周産期医療を含む今後の木曽病院の在り方、住民説明会への出席者が少ないことを含む住民の関心度、助産師の活用等の多くの意見が出された。村長からは多角的な視点でどのような支援ができるか検討していくとの説明があった。

② 味噌川ダム管理状況の報告

令和7年4月1日より組織の再編を行い、木曽川の上流に位置する3ダム（阿木川ダム・味噌川ダム・岩屋ダム）が「木曽川上流ダム総合管理所」になったと説明があった。

管理状況や洪水調節について説明があり、利水の状況把握は下流からの連絡で把握しているとのこと。災害予測は、技術センターと気象協会と連携して流入量を予測し対応している。ダムの開閉操作はそれぞれのダムで管理しているが、総合管理所である阿木川ダムで他の2つのダムの操作ができないため、今後検討していくと回答があった。

③ 株式会社源からの報告について

村の指定管理者の指定を受けている株式会社源から道の駅きそむら及び木祖村加工センターの令和6年度の経営状況の報告があり、人件費等削減が難しい現状を踏まえ商品の価格の値上げ等も行っている。インドネシア人2名を採用しているが、高齢化が進み人材確保が厳しい等の説明があった。商工会から派遣のコンサルタントによる経営診断等を行う中で、事業継承は厳しい現状であるため、今後、村としても後継者の創出、加工センターの在り方を実態を見て対応するよう意見が出された。

④ 第26回木曽川源流夏祭りについて 総務課

◆開催日時：令和7年8月2日(土) 17:00~20:30

昨年度の反省事項より、ステージの拡張、音響設備の増設を行う。出店見込み20店舗、出演見込み10団体を予定しており、昨年同様に抽選会を開催し、景品は木祖村の特産品を中心に150個程を用意する予定。

小雨決行で、雨天時は社会体育館で実施。20時20分~は例年と同規模の花火の打ち上げを予定していると説明があった。

⑤ 総合防災訓練について 総務課

◆開催日時：令和7年8月24日(日) 午前中

大雨・洪水を想定し、①情報伝達訓練②住民避難訓練（ハザードマップ及び災害時住民支え合いマップを事前に確認）③シン・オートコール（災害発生時の避難情報の提供や住民の避難行動を把握するシステム）の説明、デモ④災害時支え合いマップの見直し⑤排水訓練の実施を予定していると説明があり、議員から避難が難しい住民を避難誘導する等の実践的な訓練を行うよう要望が出された。

⑥ 松塩筑木曾老人福祉施設組合の現状について 住民福祉課

介護人材不足、人事院勧告に基づく職員給与の増加、物価高騰による修繕費等の高騰を要因に令和3年度から単年度収支で赤字に転じており、施設の再編計画（10施設から8施設）により木曽地域ではあすなろ荘（南木曽町）を廃止予定としている。その対応として木曽地域で協議し、従業員の確保、大規模改修済み等の理由から、なんてんの里を廃止し、あすなろ荘、サニーヒルきその存続を要望する予定であると説明があった。

⑦ ツキノワグマゾーン管理計画について 産業振興課

ツキノワグマと人との緊張感ある共存関係を再構築することを目的に地域区分の設定を行い、猟友会と連携を図りゾーン管理に取り組む。（※6月12日住民説明会を開催）

①排除地域：人家密集地、保育園や小学校等の公共施設や通学路等及び老人ホーム（サニーヒルきそ）

②防除・緩衝地域：農地や集落と林帯が混在する里山林とその周辺、こだまの森や白樺別荘地、民家や農地の間の山林

③主要生息地域：①②を除いた地域と説明があり、デイサービス（たのしや）を①にすべきではないかとの意見があり、村長から排除地域に指定すると回答があった。



（全員協議会の模様）

◆安原千佳世 議員

①水道管の老朽化への対応を問う

◆奥原 當 議員

①行政に携わる者の姿勢と負担軽減について
 ②戦後80年 歴史に向き合い平和式典開催を願う
 ③草刈り機の共同購入に補助金制度の創設を

◆清水えり子 議員

①子ども達が夢を描ける木祖村へ
 ～未来ある才能あふれる子ども達の支援体制を問う

◆深澤 衿子 議員

①健康福祉計画を活かすために村の取り組みを問う

◆大久保庄亮 議員

①水素社会の実現にどのような取り組みをするか！
 ②日進市との友好交流の再構築を！
 ③農業体験の拡大を！

◆宮下 孝次 議員

①今後の地域コミュニティのあり方とRMOへの移行について

◆田中 寛幸 議員

①百日咳とRSウイルス妊婦の予防接種補助と高齢者の予防接種補助はできないか

やすはらち かよ
安原千佳世 議員

水道管の老朽化への対応を問う

答 水道管更新計画と耐震計画に沿って対応していくが、現在見直し作業をしている

問 水道は生活に不可欠なインフラであり、その健全性は衛生や日常生活に関わる重要な課題である。全国では老朽化した水道管の事故が多く発生している。本村の簡易水道は昭和50年代に施設整備をして布設されている。法定耐用年数を超過しつつある。①水道管の延長距離と耐用年数超過部分について②有収率の実績について伺う。

建設水道課長 ①77kmでその内50kmが超過部分②全体は47%、小木曽は49%、藪原75%、菅29%、吉田16%である。

問 全国の平均は80%を超えているが、木祖村は低い状況である。吉田は今年度送配水管の布設替工事が計画されている。小木曽、菅の布設替工事は計画されているのか。「更新計画」は策定されているのか。

建設水道課長 小木曽はこだまの森へ接続する管路の更新を予定している。更新計画は令和6年に策定し、路線別に評価をして優先度の高いところから更新することになっている。今年1月に耐震計画を策定し防災拠点や

避難所へ接続する管路を優先的に更新することにした。

有収率が低下し経営を圧迫する状況から外部コンサルの支援を得ながら、より効率的な計画となるように見直しを行っている。

問 水道管の交換コストはおよそどの程度か。耐震性の高い水道管の導入は実施されているのか。

建設水道課長 150mmが一般的であるが1km当り約8,000万円の費用となる。耐震性の高いポリエチレン管を採用している。これまでに約5km布設している。

問 当村は給水原価が供給単価を上回る原価割れの状況であるが、給水人口が減少する中で料金値上げは想定されるのか。また、一般財源からの繰入金は今後10年程度どの程度を見込んでいるのか。

建設水道課長 平成21年度の改定後、政策的に料金を据置いてきたが、今後計画的に管路更新するとすれば上げざるをえない。一般会計からの繰入金は6年度6,300万円であったが、10年後は11,000万円の見込みである。

Pickup 「カリキュラム・オーバーロード」の改善を求める意見書

※1 P3用語解説参照

今、学校現場では、小・中・高を合わせると41万人を超える不登校の子ども数（23年度）が文科省調査で明らかになっています。また、貧困・いじめ・教職員の未配置など解決すべき課題が山積しており、長時間労働の実態も改善されず、子どもたちの豊かな学びを保障するための教材研究や授業準備の時間を十分に確保することが困難な状況となっています。

学習指導要領の改訂は、子どもたちのゆたかな学びの保証や、教職員の「働き方改革」に大きくかわかります。「カリキュラム・オーバーロード」の状態等を改善することが喫緊の課題です。このため、次期学習指導要領の内容の精選や、標準授業時数の削減が強く求められます。

つきましては、下記の措置を講じられるよう強く要請します。

記

1. 子どもたちのゆたかな学びを保障するため、「カリキュラム・オーバーロード」の早期改善、および学習指導要領の内容の精選を行うこと。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出いたします。

令和7年6月17日
木祖村議会議長



行政に携わる者の姿勢と負担軽減について

答 今後は役割を分担し対応する

問 村長は今年度新たに子育て支援の強化、やぶはら高原スキー場への投資、駅前の観光拠点の整備、危険箇所解消等の施策等、積極的な財政を打ち出している。4月25日の木祖村交通安全協会総会で60余名が出席する中、村長の挨拶が出席者から指摘されることがあった。今後の対応について伺う。また、行政が主催する会議等における理事者側の参加について負担を軽減するなど役割分担が必要ではないか。

村長 当日は体調不良であった。今後については分担等で対応していく。

問 市レベルでは担当課があり礼を欠かないよう対応している。村にあっては理事者3役、総務課長も含め出席者の体調管理と出欠の確認を行い、住民の期待に応えてほしい。

副村長 今後は確認し、対応していきたい。

戦後80年 歴史に向き合い平和式典開催を願う

問 世界が混乱を極めている中、戦争と平和について問われている。日本の軍事費は、3年前に5.4兆円だったが、8.7兆円まで膨れ上がった。さらに米国は、軍事費を18兆円以上に増やすよう要求している。このような中で満蒙開拓団を送り出した源流の里木祖村として、未来の子どもたちにつながる式典を永続的に開催し、平和の希求を木祖村の村是にしようではないか。開拓団では、木祖村で204名、旧奈川村・旧日義村で95名、合わせて299名が亡くなっている。引き揚げてきた方々は生活再建に大変な犠牲を強いられた。村民センター前の記念碑で不戦を誓う式典を村を挙げて開催しようではないか。ちなみに同様な質問は今回で連

続3回目である。

村長 遺族会との話の中で7月18日(金)に慰霊祭を開催する予定。

意見 我々大人が残すべきことは平和こそであり、それが人間の生きる道である。世界に羽ばたいていく未来の子どもたちに残すべきものとして、平和を追求しようではないか。

草刈り機の共同購入に補助金制度の創設を

問 高齢化が進み遊休農地やあぜ等の管理が「大変だ」「もうできない」という声が地域から上がっている。草刈り機を個人所有している場合、体力的問題等で使えなくなると維持できない。村が共同購入に補助をして地域で引き継いでいけるようにしてはどうか。

産業振興課長 現在村で購入した機械は2台あり、村には農業機械購入補助金の制度がある。個人による草刈り機の共同購入への補助制度については、今後検討していく。

問 耕作等をやめた住民から機器が大量に運び込まれた。機械で草を刈っている人達もやがては使わなくなる時がくる。無駄を除くためにも地域の共同による購入を補助金要綱に基づいて進めるべきだ。以前、村で購入して2機の機器は責任所在が明確でなかったために整備等が不十分だった経緯がある。共同で購入することによって、個人を含めた管理を確実にし、次代に引き継いでいけるようにすれば村内の景観保持につながるのではないか。

産業振興課長 今後は希望の有無と予算を勘案し進めていきたい。

Pickup 高額療養費の自己負担上限額の引き上げをしないことを求める意見書

医療機関等での患者の自己負担が一月当たりの上限額を超えた際に、その超過分を支給する高額療養費制度は、患者の負担を軽減し、国民に必要な医療を保障するセーフティネットとしての役割を果たしています。

令和7年度政府予算案に、高額療養費[※]の自己負担上限額を8月から段階的に引き上げる「見直し」が盛り込まれていました。しかし、政府はがん患者団体や国民の声を受けて、今国会での高額療養費の自己負担上限額の引き上げを見送り、今年秋までに改めて方針を決定すると表明しています。

高額療養費は、がん患者をはじめ重篤な疾患の患者にとってまさに命綱です。自己負担上限額の引き上げは、受診抑制や治療継続の断念につながりかねません。

今、日本は物価上昇に賃金が追いつかず、家計が厳しい状

況にあります。その上、重篤な疾患の患者には就労制限を余儀なくされている方も多く、高額な治療費の支払により困難な生活を強いられています。本来であれば、物価上昇分を考慮して患者負担を減らすべきです。

以上の趣旨から、以下の項目について求めます。

1. 今後も高額療養費の自己負担上限額の引き上げは行わないこと

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出いたします。

令和7年6月17日
木祖村議会議長

[※]高額療養費制度：医療機関や薬局の窓口で支払った医療費が、1か月（1日から末日まで）の間に自己負担限度額を超えた場合に、超えた分が後から支給される制度。



しみず あり子 議員

子ども達が夢を描ける木祖村へ ～未来ある才能あふれる子ども達の支援体制を問う

答 木祖村においても未来ある子どもの支援に取り組んでいく

問 支援体制には財源が必要となるが、他市町村へ調査したところ「ふるさと納税」を活用しているとのことである。木祖村のふるさと納税の収入額、用途別の支出額を問う。

総務課長 令和6年の収入額は1,640万1千円。用途を7つ選択できる中で、教育関係は、みんなでつくる子育てしやすい環境と多世代交流に175万円、その他村づくりに689万3千円等の財源の一部を活用し、児童クラブ、公設学習塾、給食原材料費、通学路の整備、総合型スポーツクラブ運営費の一般財源へ充ちしている。

問 木祖村の支援体制の有無及び「子どもは村の宝」の基本理念に沿った具体的な取り組み施策を問う。

教育次長 激励金として全国大会3万円、オリンピック10万円、その他国際大会5万円、この他、総合型スポーツクラブから全国大会1万円、国際大会3万円の支援があり継続していく。今後、提案の報奨金につ

いては成績に応じた対応を考えていく。

問 山ノ内町では子ども達がスポーツ、芸術、文化等における技術研修等に参加するため、海外の学校教育機関への留学を支援（融資ではない）する事業を創設し、将来を担い羽ばたく子ども達への支援体制が厚い。村として財源が確保できたならば、子どもを支援する施策に取り組む余地、あるいは可能性はあるか。

村長 山ノ内町の先進的で子ども達の未来へ羽ばたくすばらしい事業を参考にしていく。国際大会での子ども達の活躍は村へ明るい話題を提供してくれている。村としても家庭にできる限りの支援をしていく必要がある。

要望 他市町村と木祖村では人口も予算規模も違い、財源や摘要課題等乗り越えるハードルは高い。しかし、子どもたちが夢を描くことができる村であれば、魅力ある将来の発展も見えてくるはずである。夢と将来ある子ども達の支援体制の実現を要望する。



ふかざわ あり子 議員

健康福祉計画を活かすために村の取り組みを問う

答 確定した段階で住民に説明する

問 広報に福祉計画概要版が掲載された。自分の健康に注視するようになり村の施策に関心が持てた。毎年実施している健康ポイントはどのような効果がみられるか。

住民福祉課長 この制度開始から参加者に歩数意識や運動習慣が見られ1人1人の意識向上に繋がっている。ポイントを獲得し自分の健康状態を振り返ったり、家族や友達と一緒に取り組むことで楽しみながら続けられポイントも貯まり、健康講座の定着に効果がある。

問 ポイントを使わない人もいるが、どう推進していくか。

住民福祉課長 今年度からポイントカードをいろいろな教室、利用できる所に置くなど工夫をした。今後このポイントの電子化を検討している。

問 健康ポイントを使う人たちの年代層はどうか。また、若い人達への普及はどうするか。

住民福祉課長 高齢者が多い。積極的に使っている若い人もいる。

問 まめのわフィットネスの活用状況はどうなっているか。

住民福祉課長 教育委員会主催の教室、住民福祉課主催の教室、スポーツクラブ主催の教室、各団体の利用など。年間延べ3000人程度で増加傾向にある。引き続き利用促進を図る。

問 10月から公共交通が変わるが、まめのわに通う足の確保の検討はどうか。

住民福祉課長 進めていく必要があると考える。

問 計画の中の男女共同参画について今年度の取り組みは。

住民福祉課長 県の男女共同参画センター主催のセミナーを9月27日(土)、11月22日(土)、役場2階大会議室でサテライト会場として計画している。

問 村職員の健康チェックはどのように実施しているか。

副村長 一定時間以上勤務の会計年度任用職員を含め年に1回の健康診断や、人間ドック受診をしている。結果をもとに県の市町村職員共済組合を通じ特定保健指導対象者となった職員は健康指導の支援を行っている。メンタルヘルス対応は毎年ストレスチェックを実施し、その分析結果を個人へフィードバックし、理事者と情報を共有している。また一般職員は毎年自己申告書（項目の中に本人や家族の健康状況・留意点など含む）の提出を受け、心身に不調がある場合は私が相談員となり悩み事を聞き解決策を模索する他、産業医に必要な相談等もできる体制を整えている。

意見 心身ともに健康であることのありがたみは病人だ人を支えている家族や周りの方が一番感じている。健康福祉計画を活かすため再度概要版を住民が見ることができ企画を。



水素社会の実現にどのような取り組みをするか！

答 まずは水力発電に取り組み、その後、水素社会実現の取り組みを検討してみたい

問 現在、日本全国色々な所で水素社会実現の取り組みが行われている。また、今、行われている大阪万博でも各国が取り組んでいる。木祖村においてはどのような取り組みを考えているか。例えば村民のために水素車の試乗会を行ったらどうか。

村長 木祖村としては、まず小水力発電に取り組み、その後、検討してみたい。

日進市との友好交流の再構築を！

問 友愛会が開催され、日進市の市長が参加されていた。木祖村と日進市が今日の関係まで至る道のりは大変であったと思うが、最近は日進市との交流イベント等が消えかけているように思われる。そこで、今後、例えば結婚支援イベント等を開催する取り組みを行うなど再構築していったらどうか。

村長 村民レベルによる日進市との交流は、下火になっているかと思う。日進市で若い人を集めてこちらへ来ていただけないという具体的なお話があるのであれば、しっかり対応していきたいと思う。今後、住民同

士の交流が盛んになるような施策についてしっかりと取り組んでいく。

農業体験の拡大を！

問 喜びだけの体験ばかりでなく喜怒哀楽を味わうことのできる農業体験をやっていただきたい。運動会、音楽会と同じように親子田植え大会、収穫祭等を行って、その経験から今の小中学生をどこでも食べていける逞しい人間として育てて欲しい。

教育長 小・中学校での農業体験は生活科社会科、総合的な学習の時間を有効活用している。具体的に行っている農業体験は、小学校では御嶽はくさいを素材にした学習、白菜畑の見学をしたり、あるいは白菜の流通を調べたり、美味しく調理するためのレシピ等について考えながら調理実習に取り組むという身近な体験を進めている。また教育課程外の活動もやっており、農業の大切さ、大変さというものを子どもとともに理解することに繋がるようにしている。



今後の地域コミュニティのあり方とRMO※への移行について

答 まず地域自治協議会の現状の課題解決から始め、検討を重ね、必要により研究をしていきたい

※農村RMO：複数の集落の機能を補完して、農用地保全や農業を核とした経済活動と併せて、生活支援等地域コミュニティ（自治会や地域自治協議会等）の維持に資する取り組みを行う農村型地域運営組織。

村は少子高齢化とともに自治会等地域コミュニティの弱小化が進むと思われる。村と似た環境の朝日村が農村RMOを立ち上げ、中山間地域の農地保全や空き家の活用、高齢者の見守り・買い物支援等により乗り出した。村に置き換えると地域自治協議会の同様な移行が充分可能で有用性が高い。村の受けとめを伺う。

問 村は総務省の調査に農村RMO移行への必要性を感じると回答をしているが、移行に向けた意向の有無について伺う。

副村長 農村RMOは地域づくりの観点から村の地域自治協議会と共通点が多い。3月会議で安原議員から地域自治協議会の一般質問があり、そのあり方の検討に着手をしたので、まずこの課題について先行して考えねばならない。検討する中で住民の暮らしが成り立たないようであれば研究をしていきたい。

問 幸い村には充分な素地がある。各地区の地域自治協議会はRMOの特徴である多種多様な組織で構成されており、特に西山耕地組合は中山間地域等直接支払交付金と多面的機能支払金の交付を受け、これに地域住民の生活支援事業を行えば、まさに農村RMOに直結する。さらに農業体験ができるゲストハウスやNPO農業法人を目指す地域おこし協力隊の存在も追い風となり親和性が高い。村の方向性や考え方について伺う。

副村長 まず地域自治協議会のあり方の課題解決をしていく。西耕のような直払い集落協定は以前3地区の組織があったが今は1つだけである。一足飛びに組織を作って、じゃあ始めるかというところという状況にはない。地域自治協議会の課題を整理し、現状と合わない部分を見直し、新しい組織のあり方について検討すべきと考えている。

問 農村RMOへの移行は地方創生と農水省他各省庁の交付金・研修等手厚い支援体制がある。村が行った山間地へのドローンの配送実証実験も移行に向けた好材料となるが、いかがか。

村長 農村RMOは非常にいい制度。ただし議会から地域自治協議会の廃止を投げかけられており、そこを整理している段階。まずは地域自治協議会をどうしていくかという中で、検討を重ね必要により制度を取り入れていく方向で理解願いたい。

要望 地域自治協議会のあり方の検討で、RMO移行への必然性の認識が高まれば更に進む人口減少とコミュニティ充実の対策として、移行に向けた検討を深めてほしい。自治会等地域コミュニティは高齢化等の役員問題等悩ましい現状の改善は急務だ。村の存続と住民の生活を守るためにRMO化をきっかけにした持続可能な村づくりを進めていくことに注力してほしい。



た なかひろゆき
田中寛幸 議員

百日咳とRSウイルス妊婦の予防接種補助と 高齢者の予防接種補助はできないか

答 国や県の動向を注視しながら検討していきたい

RSウイルスワクチンは妊婦が接種することで、赤ちゃんを守る開発優先度が高いワクチンであるが、2023年60歳以上の成人を対象にRSワクチンが厚生労働省の製造販売承認がされ、2024年に妊婦に対するワクチンの製造販売承認がされた。この新しいワクチンは妊婦が接種することでお母さんの体内でRSウイルスワクチンの抗体を作り、それが赤ちゃんに伝わり、生まれてきた時からRSウイルス感染を予防できる。百日咳も妊婦に接種するワクチンはあるが日本では承認されていない現状である。

問 百日咳とRSワクチンの村としての認識は。

住民福祉課長 百日咳は国の定期予防接種で生後2か月から接種が行われるが、重篤な呼吸器疾患で生後数か月の赤ちゃんが感染した場合重症化しやすく命にかかわるケースもある。厚生労働省では妊婦へのワクチン接種を推奨しており新生児の感染予防につながる重

要な施策として位置付けられている。RSウイルスも同様に赤ちゃんがかかると重症化しやすく命に係わり、特に高齢者や免疫力が低下している方は影響を及ぼす。開発優先度が高いワクチンではあるが令和6年から薬事承認されたことから、国内で使用され接種費用は3万円から4万円と高額であり接種補助を開始した市町村もある。

問 百日咳やRSワクチン接種の妊婦への村の補助はできないか。

住民福祉課長 RSワクチンは薬事承認されてまだ1年余り、一定の評価はあるものの国や県の動向を注視していきたい。

問 高齢者へのRSワクチン接種の補助は。

住民福祉課長 RSワクチンの認識がまだ少なく補助が始まったばかりで今後の動向を見ながら検討していきたい。

木曽広域連合議会 第2回定例会

全員協議会で「自治体DX/ICT利活用 計画の改定について」に多くの意見

令和7年5月21日(水)
木曽文化公園

議案は下記記載の提出のとおり全て可決された。

議案第12、13号は「周産期医療に関すること」の追加に伴う項目変更と分掌事務に内容を追加するもの。

また、議案第15号の補正の趣旨は全国瞬時警報システム（Jアラート）受信機更新に消防費を充てるため緊急防災・減災事業費300万円を追加するもの。

「DX・ICT利活用計画推進経費の補正予算計上」は、アクションプランに基づき令和7年度もコンサルタント「みらいワークス」を活用し、自治体のDXを推進するもの。

議案第18号「旧木曽寮除去工事」は議決後本契約を行い着手予定で、契約額は2年度分で地元説明会を開催後、着工予定。

議会終了後、全員協議会が開催され、「自治体D

X/ICT利活用計画の改定」については、行政区や自治会役員のなり手不足に対応するため、地域運営組織（RMO）への移行、買い物難民対策、住民を巻き込んだビジョンの推進。電子回覧板の機能改善、有害鳥獣問題でクマ罠に監視モニターをつける対策の推進等、多くの意見が出され、各課題を整理、指摘を踏まえて進めていく等の回答があった。

「広域連合への県の参画について」は、町村や広域の独自性が失われないか、広域観光はどんなビジョンなのか、公共交通におけるドライバー不足の問題等の意見が出され、町村の自主性を尊重し、行政サービスの確保に努める、より丁寧な説明を行い、現在素案の段階であるので、内容を深めていくと説明があった。

■報告第1号	令和6年度木曽広域連合一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について	…報告
■議案第12号	木曽広域連合広域計画の変更につき議会の議決を求めることについて	…可決
■議案第13号	木曽広域連合事務局設置条例の一部を改正する条例について	…可決
■議案第14号	木曽広域連合職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	…可決
■議案第15号	令和7年度木曽広域連合一般会計補正予算（第1号）	…可決
■議案第16号	令和7年度木曽広域連合介護保険特別会計補正予算（第1号）	…可決
■議案第17号	建設工事請負契約の締結について「令和7年度可燃ごみ処理施設更新工事」	…可決
■議案第18号	工事請負契約の締結について「令和7年度旧木曽寮除去工事」	…可決
■発議第1号	木曽広域連合の個人情報の保護に関する条例の一部を改正する条例について	…承認
■発議第2号	議会会議規則の一部を改正する規則について	…承認

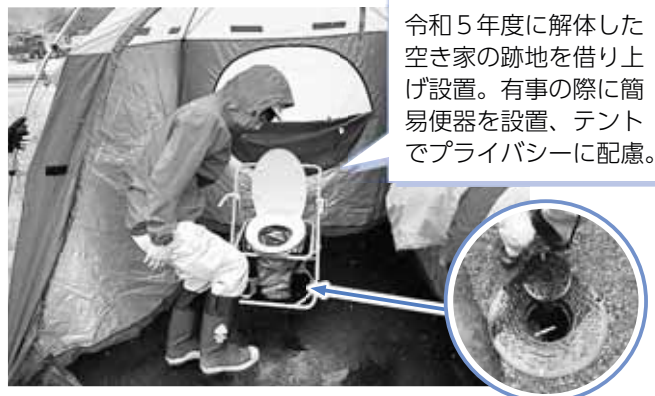
特集

村内各地で各種事業等が着々と進む。現状・進捗を紹介



木曽川護岸工事（藪原下河原）＜県工事＞

- ▶実施年度：令和6年～ ▶進捗：工事中
- ▶課題：令和6年度より着工済み。
- ▶予定：令和6年度より着工済み。早期完成に向け要望を行う。



令和5年度に解体した空き家の跡地を借り上げ設置。有事の際に簡易便器を設置、テントでプライバシーに配慮。

マンホールトイレ（藪原藁原）＜村工事＞

- ▶実施年度：令和6年 ▶進捗：完成
- ▶金額：783万円
- ▶予定：災害の際、地元で設置できるよう藁原消防車庫に収納となった時点で説明会を行う。



砂防堰堤で土石流を防ぎ下流の住宅等を守る。※残存型枠は軽くて施工が早い。

夏山砂防（藪原青木沢）＜県工事＞

- ▶実施年度：令和5年～ ▶進捗：工事中
- ▶課題：令和5年度より着工済み。早期完成に向け要望を行う。

※残存型枠：通常コンクリートを流し込む型枠は硬化後取り外すが、残存型枠はそのままでよく、工期短縮、コスト削減などのメリットがある。



舗装がひび割れ荒れた状況になっている。

村道味噌川線改良工事（小木曽）＜村工事＞

- ▶実施年度：令和7年 ▶進捗：準備中
- ▶金額：2,850万円
- ▶課題：地元と調整し第2四半期中に発注予定。



花の木防災倉庫（小木曽花の木）＜村工事＞

- ▶実施年度：令和6年 ▶進捗：完成 ▶金額：3,300万円
- ▶予定：防災倉庫が整備されたことにより備蓄品の整備を順次進める。



メッシュの網をパイプ付プレートで留める新工法を採用

奥木曽2号線法面復旧工事（小木曽）＜村工事＞

- ▶実施年度：令和6年 ▶進捗：完成 ▶金額：7,220万円
- ▶課題：吹付法面劣化箇所が他にもあり、実施計画にて検討する。



矢印の向きに
溢水が発生

崩沢水路整備工事（小木曾崩沢）＜村工事＞

- ▶実施年度：令和7年 ▶進捗：準備中 ▶金額：980万円
- ▶予定：地元と調整し第2四半期に発注予定。



30m

約30mの高さまで掘削土が積み上がる

コア山＜国工事＞

- ▶実施年度：令和4年～ ▶進捗：実施中
- ▶課題：数原改良トンネル掘削土の運搬について情報が得られ次第周知を図る。完成後の跡地利用は今後、検討。



スノーマシン設置イメージ

国設第一ゲレンデスノーマシン整備工事（スキー場）＜村工事＞

- ▶実施年度：令和7年 ▶進捗：施工中 ▶金額：1億526万円
- ▶予定：2025～2026シーズンに向け施行を進める。

令和7年度議会現地踏査は梅雨の合間の6月16日(月)に全議員及び村長以下全課長が参加して行われた。

議案の説明等でしか理解していなかった諸事業等の現場を見ることで、村には災害関連の工事が多いことを実感、今後の順調な進捗に期待がかかる現地踏査だった。



至奈川→

点線の部分に橋が架かる予定



↓至数原

(主) 奈川木祖線境峠（境峠）＜県工事＞

- ▶実施年度：令和4年～ ▶進捗：工事中
- ▶課題：整備促進に向け引き続き要望を行う。



排水路がクランクになっており雨が降るたびに周辺が溢水する。

奥峰1号線測量調査設計業務（スキー場）＜村工事＞

- ▶実施年度：令和7年 ▶進捗：準備中 ▶金額：451万円
- ▶予定：溢水対策を考慮した道路改良を実施。



スキー客から改善要望が寄せられている。

村道岩岳線改良工事（スキー場）＜村工事＞

- ▶実施年度：令和7年 ▶進捗：施工中 ▶金額：2,850万円
- ▶予定：舗装の状態が悪い箇所が他にもあり引き続き実施計画で検討する。



近隣に同様な施設がなく、人気も高いことから早期のリニューアルが待たれる。



騒音等による利用者への影響を考慮し、混雑時は休工とする

こだまの森巨大迷路改修工事（こだまの森）＜村工事＞

▶実施年度：令和6年繰越 ▶進捗：施工中 ▶金額：4,219万円
▶予定：工事が夏季の繁忙期（7～8月）と重なるため奥木曽グリーンリゾートと協議しこだまの森の営業を優先し工期延長を行う。



接続して埋め込むと自動的に接着し十分な硬度を保つ

吉田地区送配水管布設替え工事（吉田）＜村工事＞

▶実施年度：令和6年繰越 ▶進捗：準備中
▶金額：工事分1,345万円
▶予定：第2四半期中に発注予定。



R19↓



溪床勾配が急で崩壊地形が認められるとともに不安定土砂が堆積し、豪雨により土石流が発生する危険がある。

二段目堰堤の工事

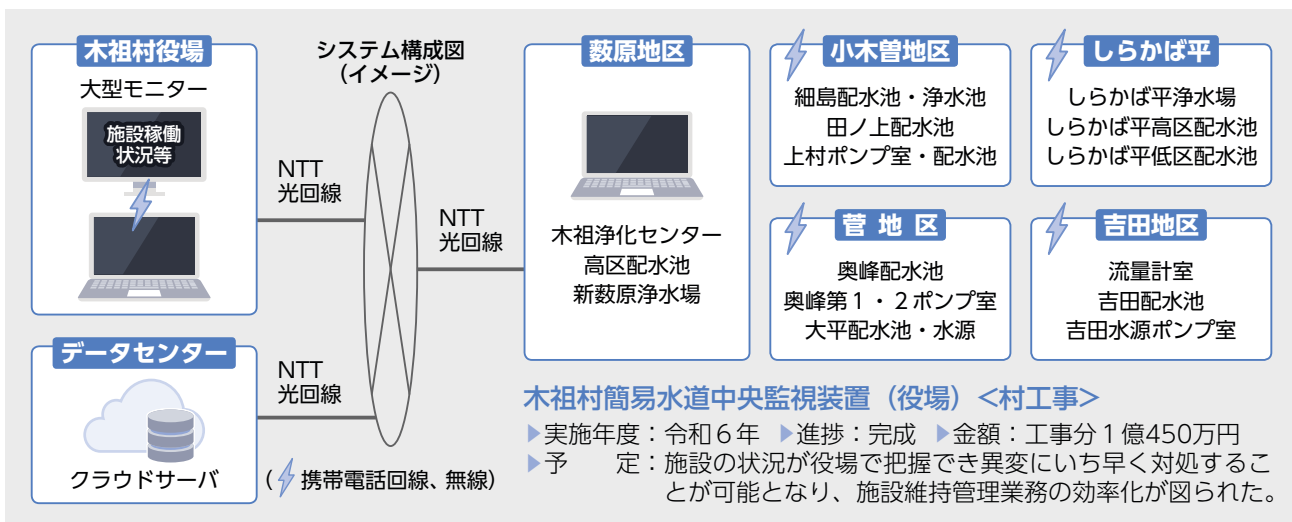


木坂↓

一段目の堰堤は完成↑

犀勝（さいかち）砂防（数原）＜県工事＞

▶実施年度：令和5年～ ▶進捗：施工中
▶課題：トンネル工事との調整について村も積極的に協力していく。



ハラスメント研修 令和7年5月12日(月) 役場2階大会議室

議員の職務上のハラスメントを防止し、適切な行動をとりハラスメントを未然に防止するため、内閣府男女共同参画局の動画視聴によるハラスメント研修が開催され全議員が参加しました。

パワーハラスメントやセクシャルハラスメント等が議員活動中に起こる可能性のある具体的な事例を学び、一人ひとりが理解を深めました。また、議員研修誌の「地方議員のためのハラスメント防止入門」により各自が理解を深めています。なお、現在、村議会のハラスメント要綱等の制定に向けた検討を進めています。



町村議会議員研修 令和7年5月30日(金) 役場2階大会議室

議員としてのスキルアップや様々な課題に対する見識を深める目的で毎年行われている町村議会議員研修ですが、今年は下記の内容の講義を受けました。

◆「人口減少時代の地方議員に求められるものとは」

拓殖大学政経学部教授 河村 和徳 氏

◆「議会運営と質問の基本的考え方」元全国都道府県議長会事務局次長・議事調査部長 内田 一夫 氏



木曽郡植樹祭 令和7年5月23日(金) 奥峰地区

森林整備の一層の推進と意識の高揚を図ることを目的に緑化運動の一環として、今年度は木祖村で木曽郡植樹祭が行われ、令和5年度に皆伐したカラマツ林に700株のカラマツのコンテナ苗を植樹しました。当日は各地から多くの皆さんが参加し、みどりの少年団(木祖中学生)がみどりの宣言を行いました。その後、こだまの森バーベキューハウスで懇親会が開催され参加者と懇親を深めるなど有意義な取り組みとなりました。



大原育樹作業

大原育樹作業 令和7年6月8日(日) 大原法面(村有地)

村有地の大原法面において村の関係者やボランティアとともに大原育樹作業(ハリエンジュ(ニセアカシア)の除去作業)に参加しました。今年は噴霧器による除去作業を行い、暑い中でしたが、多くの皆さんと緑化推進事業を行い、村有地の維持管理の一助を担うことができました。

第38回はくさいマラソン草刈り作業 令和7年6月26日(木)

第38回はくさいマラソン大会駐車場等の整備のため、村関係者やボランティアとともに小雨が降る中、草刈り作業に参加しました。



草刈り作業



大会当日ボランティア活動 令和7年7月5日(土)

大会当日は晴天に恵まれ、姉妹都市の日進市スポーツ推進委員や中学生、村関係者の皆さんとともにゴールでの給水やチップ外し作業、そして参加したランナーの皆さんへの応援を行いました。今年は1,200名ものランナーが参加され、中には外国人ランナーもあり、「いつも暑い中ボランティアの皆さんに感謝で、声援が励みになりました」「初めての参加でアップダウンがきつかったけど、景色や空気がきれいで気持ちが良かった」「景品のはくさいが美味しくていつも楽しみにしています」等の言葉をいただき、笑顔のボランティア活動の大切さを再確認するとともに、今後もはくさいマラソン大会が多くのランナーの笑顔で彩られることを願いました。



大会当日ボランティア

坂口さんはムサビ（武蔵野美術大学）を卒業、数々の作品を発表してきましたが、コロナ禍に遭遇。そんな折、木曽ペインティングスに参加、木祖村を訪れるうちに移住を決断。その後、地域おこし協力隊に採用され、観光協会で観光ガイドや広報デザイン、MGプレスのコラム執筆などの活動をしてきました。その間、公民館の講座などで活躍、卒業後も木祖村にとどまり、現在は教育委員会で木祖村郷土館の収蔵品等の記録・保存、企画等を担当しています。日曜画家の村を標榜する村にあって創作活動とアーティストとしての感性を生かした活躍が期待されています。移住先に木祖村を選んでくれた、いつも笑顔の坂口さんの応援をお願いいたします。

（議会だよりNo.191（前号）の表紙の木祖小学校卒業式 6年生に贈られた黒板アートは坂口さんの作品です）

木祖村はとても大事な土地 これからもこの村で過ごしていきたい



作品名「分岐」

学生時代、木曽ペインティングスの展覧会で木祖村に来たことが縁となり、令和2年12月に協力隊員として着任しました。はじめは産業振興課所属として木祖村観光協会に出向し「観光のお手伝い」をミッションに活動しました。観光の仕事を通して村の歴史や文化を知り人に伝えていくおもしろさを経験したことで活動の幅が広がりました。元々東京の美術大学を卒業していたこともあり、活動4年目では教育委員会に異動し木祖村郷土館の活用をミッションに収蔵品の整理や展覧会を企画しました。卒業後の現在は木祖村役場の職員として引き続き郷土館に関わる業務を主に担当しています。着任時はコロナ禍で不安も多くありましたが、季節を巡るたびに木祖村の魅力に触れ、私にとって木祖村はとても大事な土地となりました。これからもこの村で過ごしていけたらと思います。

自己紹介

①年齢 ②出身地 ③抱負・自己PR

坂口 佳奈 さん ①34歳（1991年5月25日生まれ） ②熊本県出身

③私は4年間地域おこし協力隊として活動し、令和7年3月に卒業しました。日々の暮らしの中でも村民の皆さま、村外も含め多くの方に気にかけていただき、協力隊員として充実した活動を送ることができました。「坂口さんはよく木祖村のこと知っているね」と話される方もいますが、私がこの4年間で学んだことの多くは村民の方から教えていただきました。自分の村のことを話す皆さんの顔は生き生きしていて、とても嬉しくなります。卒業して立場は変わりますが、木祖村の歴史・文化・芸術に関わっていきたいと考えています。



現在のもっとも重い課題は少子化による人口減少という現象である。木祖村でも問題になっている自治会（地域自治協議会）の見直し、小中学校あり方検討会（小中学校の校舎統合）、議員の定数削減等いずれも村の人口減少に端を発している。

確かに人口は減少しつつある。しかし、日露戦争当時（1904年）の日本の人口は約4400万人と言われている。現在は1億2450万人である。100年前の人口よりもまだ2倍以上の人口である。一方木祖村の人口をみると、第一次ベビーブームの終わる頃の昭和26年（1951年）当時は5100人であり、令和7年現在は2495人と半分に減少している。日本全体の人口は、昭和26年は8411万人であり、現在の人口はまだその当

時の1.5倍近い。地方は減少しているが大都市は増加しているからである。

現在の大きな問題点は、人口が大都市に偏在しすぎていることに尽きる。かつては田舎の農村・山村・漁村に多くの人々が生活していた。それが高度成長期に若年層を中心に大都市に吸収されていった。それが今も続いている。しかも東京にみられるように出生率は大都市ほど低い。東京の出生率は1%を切ってしまった。また独身の男・女が増加している。昔は世間体や生活しづらいことが多かったが、現在は独身で生活に困ることはほとんどない。スーパーやコンビニでは食材が豊富であり、独身生活はかなり気楽になっている感がある。少子化対策は本当に根が深い問題ゆえ、そう簡単に解決はしない。地方創生が叫ばれて久しいが効果はまだまだの状態である。それでも取り組まざるをえない。（安原）